

河原井さん根津さんらの「君が代」解雇をさせない会 :会報

河原井さん・根津さんらの「君が代」解雇をさせない会 ニュース

NO 1

発行：2006年7月9日

連絡先：〒186-0004 東京都国立市北1-1-6 コーポ翠1階

多摩島嶼教職員組合（略称：多摩教組）TEL 042-571-2921 Fax 574-3093

郵便振込口座：00110-4-279595

河原井さん根津さんらの「君が代」解雇をさせない会

40秒で停職なんてとんでもない

河原井さん根津さんらの「君が代」解雇をさせない会 6・15集会

が開かれました

★★御礼★★

河原井純子

会が終わるやいなや、いろんな感想が寄せられました。「いい集会だったね」「田中哲朗さんの歌と語り迫力があったね。全く同感だった。厳しかったけれど……」「なんだかひとつになれた感じがした」「小森さんの話、だんだんわかってきたし……」「盛りだくさんで充実していたね」などなど。小雨降る冷えを感じる日であったが、久しぶりの人たちと、数多く出会うことができ、とてもうれしかったです。ひとりひとりが、誰かを支援するといった想いではなく、まさに、自分のこととして寄っていたのではないかと、「6・15集会」の総括をしました。確かに真剣な空気とまなざしに満ちていたように思います。

このところ「茶色の朝・大月書店」を、早朝、くり返しくり返し読んでいます。「6・15集会」の朝も読みました。なんか恐ろしいです。あまりにも、日本の今日的状況に似ているからです。ひとりひとりが今起こっていること「日の丸君が代の強制そして処分」「教育基本法の改悪」「憲法の改悪」などを、自分にふりかかる切実なこととして捉えているのでしょうか。茶色の朝は、決して、独裁者によって迎えるものではありません。ひとりひとりが「NO」「イヤダ」「ヤメテ」と言わずに黙り続けた結果として、ある日突然やってくるのです。何が大切で、何を失いたくないのか、「6・15集会」は語りかけていたと思います。

240名もの人たちと「6・15集会」の意義を共有できたことを今後に確かなものとしてつなげていきたいと痛感します。決してあきらめずです。現職の教員たちの顔が少なかったことが、やはり気にはなったけれど。

★★経過報告★★

会員・光本敏子

闘い抜くことでしか歴史を切り開くことができない。

…………… **勝たねばならない** ……………

『河原井さん・根津さんらの「君が代」解雇をさせない会』の発足を期して行なわれた第1回目の集会は、6月15日（金）、240名近い参集を得て、成功裏に終わりました。その報告をさせていただきます。

◆「振り返れ！そして、共に担え!!」

ゲストとしてアピールをお願いした小森陽一さんは、

「なぜ「新しい教科書を作る会」が旗揚げをし、その教科書が採択されたのか。従軍慰安婦問題は男女平等教育の根幹として授業を行なった根津さんが、なぜ血祭りに上げられるようになったのか。そのことを自分のこととして思い起こすことができるのか。その記憶が今問われている。名もない、力のない我々庶民が持てるのは、記憶力だけだ。」と、ことわられた上で、次のように話された。

「'93年宮沢喜一内閣の時、従軍慰安婦問題は教科書問題として出てきた。韓国の中で、“かつて従軍慰安婦だった。”と名乗りを上げた声に対し、政府の正式発表として、“日本軍が関与していた”ことを認め、謝罪をした。その後、宮沢政権に対する不信任案が可決され、細川政権がキャスティングボードを握り、自民党が野党に下るとするのが'93年。従軍慰安婦問題が自民党を自滅に追い込んだということになり、マスコミの徹底的な封じ込みが行なわれるようになる。

自民党が野党に転落した危機感に、クリントンは北朝鮮の核疑惑問題を取りあげ、あわや戦争という事態にまで行った。反北朝鮮報道をし、従軍慰安婦問題などやるやつは、北朝鮮の手先だとメディアが騒ぐ。宿敵である社会党の村山富一さんを首相に据え、安保条約を認めさせる。マスコミのデスクは共産党の手先かと弾圧され、小泉劇場にみられたマスメディアの自民党への加担となっていく。

根津さんに向けられた攻撃は、皆に振りかかっている。根津さんと共に歩んできた道を振り返り、根津さん一人の問題じゃないんだと。一人一人が会場を出てから何をやるかなんです。」と。

いつのまにか憲法改悪がまな板上に上るような時代になってしまった……。と思っている私たちに、小森さんは明快に93年、94年を取り出し、「振り返れ！そして、共に担え!!」と訴えられました。時代は急速に動いていますが、闘い抜くことでしか歴史を切り開くことができないのでしょうか！

◆ 日の丸・君が代の問題は“おかしい”というのを根底から許さないシステム

もう一人のゲスト、田中哲朗さんは沖電気で25年前に解雇されてからの経験を語られた。踏み絵を踏まされ（ビラを受け取らない、ラジオ体操への参加など）会

社の言いなりになっていく同僚。それでも門前に立って訴え続ける田中さん、その姿と停職3ヶ月の間、学校前にすわり続けた根津さんの姿がダブって見える。

田中さんは、日の丸・君が代の問題を次のように話された。

「教育基本法、共謀罪が問題になり、憲法は変えられようとしているが、法律は良くも悪くも使う人間によってどうにでもなる。今の憲法でも良いことを謳っているが、破られている。しかし、日の丸・君が代の問題は我々が権力に対して”おかしい”というのを根底から許さないというシステムなんです。それを認めてほかの法律の成立を阻止できるはずがない。労働組合の多くが、自分達の利益だけを守り、組織拡大・維持に走り、日の丸・君が代問題を組織の方針にしないばかりか、闘う人間を支援もしない。健全な民主主義を守る組織になってない。個々人が自立して自分の組織の中で、できることをやっていくしかない。」

順番は前後するが、停職1ヶ月の処分を受けた河原井さんは、停職期間中の4月3日、異動になった八王子東養護学校における校長の狼狽振りとその日の挨拶について次のように話された。

「七生養護で性教育攻撃を受けて、現在裁判闘争をしていること。10・23 通達が出てから卒・入学式、周年行事で、静かに40秒間の不起立をして停職1ヶ月の処分を受けていることを告げた。そして、職員室にゆったりした空気が流れていたもので、“この職場気に入りました。”という、笑いがあがった。“社会は走りすぎている。slow lifeで行きたい”と挨拶で述べた。現在、学校では”slow life”がやはりことばになっている。」と。

河原井さんらしい!!

終わりに、「32年間伝えることはいっぱいあるが、教えることはなかった。ずっと“yes,no,は、はっきり言っているよ”と伝え続けた。自分をごまかし、立って歌うことはできない。それは辞める時だ。ここに集まってくださった方たちと、私はつながっていたいと思います。」と静かに言って壇を降りていく河原井さんの自然体を素晴らしいと思った。

◆ どこまでも理不尽なことには従わない

しなやかに闘い続けて14年目に入った根津さんは、

「人は“おかしい”と思う時、どこまでも理不尽なことには従わない、そういう生き方もある。それが私の若い人たちに残せる一つのことなんだろうと思うようになった。」と、穏やかに、しかも毅然と次のように話された。

「たくさんの方が集まってくださってありがたいですが、教員の方が何人いらっしゃるのか。当事者が向き合わなければならないのですが、そうやれない事態になっているのが問題なんです。

私は不起立すればそれでいいと思っているのではない。日の丸・君が代の歴史や意味、強制の意味を子ども達に伝えます。私達は考えてやっていかなくてはならな

い。

強制は教育ではない。自由を奪われること。「おまんじゅうを“全員食べろ。”と言われたら私は絶対食べない。」と言うと、子ども達は納得してくれる。

1年前に「立てない」と思ってから「立たない」と決めた。

停職出勤は私のオリジナルではなく、田中哲朗さんの門前闘争が20年前にあり、私がそういうことをする時代になれば、私もそうするだろうと思っていたら、10何年後とうとう私に來た。つらいことはあるけど、動揺しないことはないけど、向き合っていこうと思っている。

“教え子を再び戦場に送らない”と言っても、何もしなければ加担していることになる。中帰連の富永正三さんが「実行者としての自分が何をしたか。その上で、命令者を追及する。」と言われていましたが、都教委がひどい、じゃなく、自分は何をしたかだと思ふ。教員の皆さん来年の3月には不起立しましょう。」

集会には、この他にも多摩教組委員長、都障労組委員長、八教組委員長、萱野弁護士、岩井弁護士、大成高校の先生、国労鉄建公団訴訟団、止めよう戦争への道八王子連絡会の方々からのあいさつ、発言、メッセージ、などがありました。紙面の都合で割愛させていただきます。

なお、6・15集会賛同団体及び個人として参加を表明していただきましたのに、パソコンの故障でメールが受信できなかったものがあり、当日配布した最終版から賛同名が漏れていた方や団体がありましたことを深くお詫び申し上げます。

★★会計・署名のお礼★★

会員 斎藤義子

ありがとう

会場はココロあふれて

場内には支援というよりも「自分の生き方の問題として行動で繋がっていかう」という思いが満ちあふれていました。厳しく見える現実を考えると重たさも感じます。でもやっぱり「まっすぐ生きたいな」と「自分らしい闘いを諦めずに続けよう」と一人ひとり思えた集会だったと思います。

根津さんの確信に満ちた映像

多摩教組委員長からの「当たり前姿勢を堅持している組合」でありたいという決意

スローライフのカワライ節

門前ドラマを語る根津さんの力強い笑顔

萱野弁護士の「勝たねばならない」という熱気あふれる裁判闘争への意気込み

「根津さんは本当に良い先生です」の言葉に会場から笑いが漏れた一幕
門前闘争の先輩 田中さんの奏でるメッセージ歌
小森さんの民主主義とはほど遠い今の政治状況についての分析そして悔しさを忘れるなのメッセージ（根津さんらのためには・・・を投げ出しても惜しくないと言う強烈な言葉もあったっけ）
とぶように買ってもらえたTシャツ・溢れるほどのカンパ
すべてのことが心にしみました。

うれしいんてこ舞いの会計報告

会場カンパは1,108,029円でした。
そのほか6,700円のカンパと入会申し込み32人でした。
Tシャツ売り上げ40,000円

6月30日までの「会員数と署名数」報告

毎日全国から会員申し込みが届き増え続けています。今は187人です。周りの方にどうぞ声をかけていただきこれからも会員が増え続けていく事を願っています。よろしく願いいたします。

又署名の方も集まり次第届けに行っています。現在署名は18,270を超えています。市民の声に耳すら貸そうとしない行政のあり方に行くたびに腹が立ってきます。でもはじめとは違い部屋を用意し質問を聞くようにはなってきました。デモでも答えが答えになっていません。次の扉を開けにご一緒しませんか？



河原井さん
根津さん

への累積処分

河原井さん根津さんらの「君が代」解雇をさせない会・事務局

●●根津公子さん

2006年7月現在

第1次被処分（1994・3）……八王子市立石川中学校

校長は職員会議の決定を破り卒業式に日の丸を揚げた。生徒が「下ろして」と叫ぶ混乱の中、
根津さんが下ろし、減給処分

第2次被処分（1995・3）……八王子市立石川中学校

職員会議の決定を踏みにじて揚がった「日の丸」について学級通信で触れて、訓告処分

第3次被処分（1999・3）……八王子市立石川中学校 石川中裁判としてたたかう

根津さんの授業内容そのものを問題にした処分（訓告）。教育行政は教育基本法第1条『教育行政の教育現場への不当介入禁止』を公然と踏みにじった。これに対し日本の裁判所は、一審から一度も法に則った判断をせず、2005年6月16日をもって最高裁は「上告棄却」。

第4次被処分（2002・3）……多摩市立多摩中学校 多摩中裁判として係争中

指導力不足教員でうち上げ攻撃 卒業を迎えた3年生に対し、「男女共生社会を生きる」のテーマで行った「従軍慰安婦」の家庭科の授業が狙われた。「従軍慰安婦は家庭科ではない」と市議会で叩き、「苦情」をでっち上げ、地域・保護者を動員して根津さんを魔女狩りの的に攻撃。指導力不足教員として現場からはすそうとした。指導力不足等教員にはさせられなかったが、一連の攻撃の中での職務命令に違反したとして減給3ヶ月処分。

第5次被処分（2003・3）……調布市立調布中学校 調布中裁判として係争中

見せしめ報復異動攻撃

都教委は自ら定めていた教員異動要綱を破り、2003年4月、根津公子さんを通勤往復約4時間かかる調布中へ異動させた。調布中には既に家庭科の教員がおり、根津さんは最初から見せしめ過員配置。その後、都教委は、異動要綱を一方向的に破棄。同年秋「10・23通達」を出してからは、逆らう教員に対する脅迫的異動攻撃が始まった。

第6次被処分（2005・3）……立川市立立川第二中学校 東京都人事委員会で合同審理中

「日の丸・君が代」強制不服従 卒業式 職務命令違反……減給10%・6ヶ月
2005年3月卒業式、「君が代・日の丸」が強行された際、途中から座って。

第7次被処分（2005・4）……立川市立立川第二中学校 東京都人事委員会で合同審理中

「日の丸・君が代」強制不服従 入学式 職務命令違反 ……停職1ヶ月・ボーナス0
その2週間後の入学式で、根津さんは、「憲法違反の10・23通達には従わない。公務員の憲法擁護の義務を全うする」と決断し、「日の丸・君が代強制」不服従不起立。これに対し、都教委は、停職1ヶ月・ボーナス0という処分の前代未聞の処分。が周知のとおり、根津公子さんはその処分を認めず停職出勤という創造的闘いをあみ出し実践。

第8次被処分（2005・12）……立川市立第二中学校 東京都人事委員会で合同審理中

再発防止研修時のゼッケン着用などへの言いがかり被処分 職務専念義務違反 …減給1ヶ月
都教委は、不服従教員に対して思想転向を迫る「再発防止研修」なるものを強行。受講時、これに「異議あり」とゼッケンを着用した教員に対し、「職務専念義務違反」という名目で、言いがかり的な処分を出した。

第9次被処分（2006・3）……立川市立第二中学校 河原井さんと共に地裁に提訴準備中

「日の丸・君が代」強制不服従 卒業式 職務命令違反……停職3ヶ月 ボーナス0
本年3月立川二中の卒業式 根津さんは、子どもの人権を守ることが、憲法で義務付けられている教員の責務であると判断、職務命令に不服従・不起立。累積処分をやめろという全国からの署名にもかかわらず、累積処分の結果、停職3ヶ月 ボーナス0。3ヶ月の停職出勤を敢行した。現在 町田市立鶴川第二中学校に強制異動させられ、7月より勤務が始まった。

●●河原井純子さん

2006年7月現在

東京都立七生養護学校で、多くの教員と共にきわめて創造的な人間教育を実践中に、七生養護学校性教育破壊事件に遭遇する。

七生養護の性教育破壊事件とは

2003年7月、都議会で土屋議員が七生養護学校を名指しし、「行き過ぎた性教育」と問題にし、また、都知事、教育長が「あきれ果てる」「不適切」と答弁したのがことの始まり。その2日後には、都議、市議、都教委が産経新聞記者を同行して七生養護学校に乗り込む。そして、新聞は「まるでアダルトショップのよう」と書きたて、都教委は性教育の教材などのあらゆる資料を没収していった。

さらに、教員や前校長など116名に厳重注意等の処分をするとともに、「学校経営アドバイザー」なるものを配置し、教員を見せしめ異動させ（＝河原井さんもその一人）、七生の教育を破壊させた。

七生の性教育は、ハンディのある子どもたちと生活する中から七生の教員たちが編み出した、子どもたちに大事なものだ。

これをきっかけに、東京の学校では、性教育の図書や教材が子どもたちの目から隠されてしまった。

処分された教員たちは、昨年地裁に提訴し、係争中。河原井さんも原告の一人。

第1次被処分(2003・12) ……七生養護学校

上記性教育で 厳重注意

第2次被処分(2004・3) ……七生養護学校

「日の丸・君が代」強制不服従 卒業式 職務命令違反……戒告

第3次被処分(2004・4) ……七生養護学校

「日の丸・君が代」強制不服従 入学式 職務命令違反……減給1ヶ月

第4次被処分(2005・3) ……調布養護学校

「日の丸・君が代」強制不服従 入学式 職務命令違反……減給6ヶ月

第5次被処分(2006・13) ……調布養護学校

「日の丸・君が代」強制不服従 30周年行事 職務命令違反……停職1ヶ月

（ 職権濫用の累積処分を許さない ）

7. 21 再発防止研修への抗議と激励

お願いします

河原井さん根津さんらの「君が代」解雇をさせない会・事務局

今春の卒業式・入学式、そして周年行事式典で「君が代」斉唱の際、服従しなかった教員に対し、都教委は今年も再発防止研修（基本研修）なる思想改造攻撃を予定しています。今回の被処分者 36 人のうちの、退職者を除く教員を対象とします。その対象者を 2 グループ、午前（10～12 時）と午後（14～16 時）に分け、研修を強行します。

河原井さんも根津も午前中に呼び出されています。

被処分者の誰もが、熟慮し不服従を選択したのです。反省することなど微塵もありません。「反省すべきは都教委だ！」を合言葉に、被処分者の方はこの時間、会場に入ります。

河原井さん根津さんは「昨年收容されたとき、駆けつけてくださった皆さんの、窓越しに聞こえる励ましや都教委に対する抗議の声が、どんなにか、私たちを励ましてくださったことか」と言っています。皆さん、今年も是非いらしてください。また、ご都合のつかない方や遠方の方はどうぞ都教委に抗議の声を届けてください。

なお、今回は「基本研修」で、被処分者全員が対象ですが、次回（去年は 9 月）は減給以上を対象として、個別に「専門研修」が強行されるはずですが、それについては、まだ知らされていません。

再発防止研修抗議行動

日時：7月21日（金）9：30 集合

午後だけ参加される方は、13時30分にご集合ください。

場所：都総合科学技術センター（いつもの、水道橋東口下車徒歩5分
北（左）に進み、都立工芸高校東隣）

抗議（文）の届け先

東京都教育委員会 人事部教職員課 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1

電話 03-5320-6792

教育情報課 電話 03-5320-6733 FAX 03-5388-1726